

山縣 住雄さん（山口県下松市出身）
2016年度4次隊 シニア海外ボランティア
派遣国：アルゼンチン 職種：柔道
2018年10月7日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

力に頼らぬ柔道を指導

アルゼンチンは、日本からみて地球の裏側にあり、国土のほとんどが平野です。車窓からの風景は牛や馬、そして森と少しの家が延々と続くパンパ(草原地帯)。山と海に囲まれて育った私にはなかなか慣れることができません。

この国の柔道の歴史は長く、緒方義雄氏が1906年に海軍と警察にその技を紹介・指導したのが始まりと言われています。その後、移民として入植した柔道家が道場を開いて広め、発展させました。リオ五輪金メダリストのパレット選手をはじめ世界的に有名な選手を輩出している隠れた柔道強国でもあります。



道場での練習風景。男女を問わず、多くの柔道愛好家がいる

私は首都ブエノスアイレスに点在する道場、スポーツクラブなどを巡って柔道を指導しています。力任せの柔道が目立つことから合理的で安全な技を身に付けてほしいと願いながら一緒に練習をしています。

アルゼンチンの人は明るく気さくで、失敗を恐れず新しいものに挑戦していきます。ただ大ざっぱで小さなことを気にしないなど日本人とは正反対の行動が目立ちます。あいさつは男女を問わず抱擁と頬にキス。練習の始めと終わり、事あるごとに頬にキスをしてきます。これに慣れるのにも、まだ時間が必要です。

日露戦争で軍艦の調達に協力し、大戦後の食料難にあえぐ日本へいち早く食料援助の手を差し伸べたのはこの国でした。日本に憧れ、日本が大好きでいつも日本を応援してくれる、遠くて最も近い国が、ここアルゼンチンなのです。